

「サニールージュ」は、種なしで外観・食味が良く、本県の栽培（露地、無加温ハウス）に適していることから、「スチューベン」に次ぐ県のブランド品種を目標に、普及拡大を進めています。

本品種は、種なし化と果実肥大促進のために、2回のジベレリン処理が必要とされ、既存品種に比べて、多くの労力を必要としていましたが、ジベレリンの1回処理法が明らかになったので、紹介します。



● ジベレリン1回処理法



満開日（全体に褐変）

果粒肥大効果があるホルクロルフェニユロン液剤（フルメット液剤）をジベレリンに加用することで、1回の処理で種なし化と肥大促進の効果を上げることができます。

① 処理時期：満開3日後

※満開日は左の写真を参考に判断してください

② 薬液作成：ジベレリン薬液25ppmに、ホルクロルフェニユロン液剤10ppmを加用する。

※両薬剤とも農薬です。必ず使用説明書を読むとともに、最新の「農薬登録情報」を確認して使用してください。

③ 処理方法：カップに入れた薬液に花房を浸漬し、果房を薬液中で2～3回振り回す。

● 1回処理でも果実品質（糖度、酸度、着色）は変わりません



ジベレリン処理

ジベレリン処理回数の違いによる果実品質（平成19年 りんご試）

作型	処理回数	果房重(g)	糖度(%)	酸度(g/100ml)	着色指数
露地栽培	1回	418	18.0	0.52	3.0
	2回	367	17.6	0.57	2.0
無加温ハウス栽培	1回	322	18.5	0.59	3.0
	2回	305	18.5	0.59	3.0

注) 供試数：10～20果房、糖度：Brix、酸度：酒石酸換算、着色指数：2以上が収穫に適する

お問い合わせ

りんご試験場栽培部まで(Tel.0172-52-2331)